

第3回（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョン有識者懇話会 議事録

テーマ：（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョンとりまとめ（素案）について

意見テーマ①

「浦和のまちの将来像の基本理念と将来像、将来像のイメージについて」

「将来像を実現するためのまちづくりの方針、展開について」

意見テーマ②

「浦和のまちの将来の生活シーンについて」

開催日時：令和4年7月22日（金）15時10分～17時00分

開催場所：埼玉会館 小ホール

出席者（敬称略）

氏名	役職	団体名等
隈 研吾	会長	建築家
安藤 梢		三菱重工浦和レッズレディース選手
市川 淳平		さいたま市浦和商店会連合会 副会長
坂井 貴文		埼玉大学学長
三木 康史		株式会社三越伊勢丹 執行役員 営業本部 伊勢丹浦和店長
鳥羽 三男		東日本旅客鉄道株式会社 浦和駅長
廣瀬 通孝		東京大学名誉教授
向井 亜紀		タレント
安河内 眞美		古美術鑑定士
清水 勇人	座長（司会進行）	

議事録：

司会者

皆様、お待たせいたしました。只今より、「第3回（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョン有識者懇話会」を開始いたします。委員につきましては、昨年の委員の皆様を引き続きご参加いただきました。なお、株式会社三越伊勢丹 執行役員 営業本部伊勢丹浦和店長は三木康史様が就任されております。合わせて、本日、安河内眞美様と安藤梢様は、ご都合のためご参加はできませんでしたが、事前にご意見を頂いておりますので、会議の中でビデオにてご紹介いたします。ここからは、座長である清水市長に進行をお願い致します。それではどうぞよろしくお願い致します。

市長

はい、それでは第3回（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョン有識者懇話会を開会したいと思います。第1回また第2回の懇話会で、隈会長をはじめ委員の皆様から頂きましたご意見、またご覧頂きました市民の皆様から頂いたご意見を元に、（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョン骨子案を昨年12月に取りまとめました。この骨子案では浦和のまちの果たすべき役割や魅力、価値等から将来のコンセプトまでを整理いたしました。これらを踏まえ今回、街の将来像と、その実現に向けたまちづくりの展開を検討してまいりましたので説明をさせて頂きたいと思います。

浦和に関わる全ての人々の幸福、ウィルビーイングの向上を目指すため大切にする考え方として基本理念を整理いたしました。浦和の地域資源や街の魅力である個性を継承していくこと、街を創り、育て、成長させてきた浦和の人は宝であり、誇りや愛着を持って暮らせるように人中心とした街にしていくこと、そして時代の変化に柔軟に対応しながら持続可能な街として行くことを三つの基本理念といたしました。この基本理念を大切にしながら浦和の将来像を設定します。洗練された伝統と感性豊かな文化が息づく、風格で魅了する都心・浦和、骨子案で仮としていたキャッチコピーです。これまでも有識者や市民の皆様から、文教都市であることを誇りに思うと言ったご意見や、浦和の街は落ち着きのある上質な生活都市であるなどのご意見がございました。私としても、ビジョンの検討を通して改めて浦和の魅力を再認識したところでございます。その中で、街の魅力を感じるこのキャッチコピーは、2050年の浦和のまちの将来像にふさわしいと感じ、設定することといたしました。また、この将来像のキャッチコピーの多様性をわかりやすく表現するために、三つのイメージで整理していきたいと考えております。

まず一つ目のイメージは、誰もが安心安全、快適に活動できる街として、都心の街としてスマートシティを目指し、新技術を活用しながら都市機能を引き続き維持更新して参ります。続いて二つ目は、県都として風格ある暮らしのまちとして市民や来訪者から選ばれ、誇り愛着を持って暮らし続けるために、デジタルトランスフォーメーションを活用しながら浦和のまちの個性を活かして磨いて参ります。

三つ目は世界に冠たる文教・スポーツのまちとして、浦和のまちを象徴する魅力・個性の文化・教育・スポーツについて新技術を取り入れながら、グローバルな視点で磨きあげて参ります。お示しをした三つのイメージは、本日の有識者懇話会や市民ワークショップなどご意見をいただき、今後、検討を深めて参ります。まちの将来像を実現するため、まちづくりの方針を設定いたしました。これも有識者懇話会で頂いたご意見を中心に、基本理念にお示しをしました、浦和のまち・人が成長するためのまちづくりの柱としてリ・デザインと、サステイナブル・サイクルという二つの方針としました。

方針の1は、浦和のまちの魅力が成長するリ・デザインです。現代の浦和のまちは、これまでの人々の尽力によって文教都市や住みやすいなどと評価されるようなまちが形成されて参りました。世界に誇れる魅力の創出や、さらに住みやすく災害に強いまちに向け、完成されたまちを最適化のために再構築する、浦和のリ・デザインに取り組みまちを進化させて参ります。

方針2は、浦和の人が成長し続けるサステイナブル・サイクルです。浦和のまちは人の繋がりなどによってこれまでも助け合いながら発展して参りました。更なる多様な繋がりによって自己実現ができる環境の創出と、人生100年時代にも住み続けられるまちを目指して、人の成長を支える持続可能な循環の仕組みによって進化させて参ります。

次に、まちづくりの展開です。基本理念、将来像、まちづくりの方針を受けて、まちと人の取り組みをまとめ、浦和の地域資源を活かしながら時代の変化に対応できるように検討し、官民連携で推進していくものです。展開の種類としては、浦和の魅力価値をさらに高める四つの展開と、まちの環境とサービスの維持にかかるその他の展開としています。

まず展開1は、浦和の文化・教育・スポーツを日常で体感し楽しめる場の創出で人生100年時代において生涯、楽しみ続けられる環境や市民や来街者がまちなかで体感できる仕組みや仕掛けを構築し、地域の活性化や市民生活の充実を目指します。

展開2は、県都・都心にふさわしい風格のある街の再構築です。環境・エネルギー性能の効率化や防災安全性の確保、緑・景観等の調和や新技術の積極活用など、複合的な都市機能を備えた質の高い環境整備を目指します。

展開3は、浦和らしい多様なライフスタイルを実現できる居住環境の形成です。浦和のまちで多様なライフスタイルを実現できるよう活動の支援、交流の場づくりや、コミュニティ形成の機会づくりに取り組みます。

展開4は、誰もが安全・安心、快適に移動できるネットワークの強化です。点在する地域資源のネットワーク化を図るとともに、目的や利用者に応じた最適な移動手段の確保を図り、誰もが安全・安心、快適に活動を交流できる移動環境の形成を図ります。

これまで検討した内容をご説明させていただきました。それでは、まず、意見テーマの1つ目として今回のとりまとめ（素案）でお示しをしました「浦和のまちの基本理念」、「将来像」と「将来像のイメージ」、それを実現するための「まちづくりの方針・展開」について、初めに隈会長からご意見を頂戴したいと思います。隈会長よろしくお願い致します。

隈会長

はい、今回ですね、まとめて頂いたものを見まして世界の都市の潮流、これからコロナ後、あるいはウクライナ後ということで世界の都市が大きく変わっていく時期、この時期にですね、浦和というのは、ある意味でそういう新しい潮流のトップランナーになれる可能性がある場所だなという風に感じました。20世紀の都市というのはですね、基本的には集中化、高層化、高層ビルがあつてそこに向かってですね人間が詰め込んで、そういう風な詰め込むことが効率つながるといふ風なそういう時代だったんですね。その時代が実は情報技術によって、すでに詰め込まなくても人間は気持ちよく仕事ができる。リモートワークなんか典型ですけども、公園の中でも仕事をしてもいいかもしれないし、家でももちろん仕事をしていいかもしれないし、そういう風な新しい時代が技術的には可能だったにもかかわらず、ずっとある意味で昔のままに、高層が都市の繁栄だ、集中がいい都市だという風にそういうある意味で怠慢な部分があつたと思うんですね。で、そういうものがコロナによって目が覚めた。本当に我々は、人間のための都市を再構築しなければいけない、環境のための都市を再構築しなければいけないということをですね、もう世界中の人間が突きつけられた、そういう大きな転換期だつたと思います。その後、じゃあどういふ都市が来るかって言った時に、この浦和のポジショニング、浦和というのはですね超高層の集中都市ではなくてむしろ都心からはそんなに遠くないけれども都心の集中からうまい距離をとって、しかもそこは文化と伝統がある。そういうですね、いい距離感を持つてる場所、その浦和の持つてる距離感ですとか浦和の持つてる蓄積みたいなものを今回の計画というのは磨きをかけて、さらに自分たちでそれを未来に繋げていくという風なですね、強い決意みたいな物が感じられるものだなと思ひまして、この、今と言う非常に大きな転換期に、浦和というのはこの転換期をうまく活かして将来にこの浦和の資産をですね、つなげていく可能性が見えてきたような気がしまして、計画を見させて頂きまして非常に心強い感じがいたしました。

市長

はい、ありがとうございます。それでは、続きまして、昨年度の懇話会にリモート出演していただいております、今回初めて壇上にお越しをいただきました廣瀬委員に、先程の隈会長の意見も踏まえながら、ご意見を頂ければと思います。

廣瀬委員

はい、廣瀬でございます。このままりモートで続けてると実はいないんじゃないかっていう風に言われるといけないので、今日はタイミング的には何かだいぶ感染者が増えてるところで最悪なんですけれども、来させていただきます。今、市長の方から御説明を受けましてですね、昨年は、僕の役目としては多分デジタルの世界っていうのを忘れないでね、絶対重要なんだよってことを言うっていうことだと思ひんですけども、非常にうまい具合にプ

ランの中に組み込んでいただけてるかなっていう風に思っております。で、去年は特に浦和市のコピー的なものっていうのかな、デジタルの世界の中に浦和市的なものっていうのはやっぱり入れておくと、のちのち便利になりますよってことで、デジタルツインという概念があるんですけどことをお話しさせていただいたと思うんですけども、今年以降、そういったその基本的な理念に基づいてですね、じゃあ具体的にどうやって取り組んでいくかところが考えていかなければいけないところかなという風に思います。たしか前回がですね11月ぐらいだったと思うんですけども、実はこういった分野を皆さん御案内のようにですね、ちょうど11月ぐらいからですね、まだ半年ぐらいしかたっていないんですけどもこの分野非常に大きな動きがありまして、それは、メタバースってキーワード聞いたことがあると思いますけれども、僕も正直言ってこんなにいきなり世の中に広がるというふうには思ってなかったんですけども、そういうデジタルの空間の中におけるある種の活動空間、そういったものの中で具体的に我々かなりいろいろな活動ができるのではないかってことを、恐らくビジネスの方たちもそうですし、それから行政とかそういうセクターに属するような方たちもそうだろうと思いますが、もちろんそういうものをつくっていくという立場の我々の技術的な人たちもそうだと思いますけれども、そういうものがだいぶ先であると思ってたところがですね、結構、明日、明後日とかの話題になってきたっていうようなところをお伝えしていきたいと思います。例えば、アートとかそういうものっていうのは非常にごく限定的なものでしか関係してこなかったと思うんですけども、最近だと NFT アートとかですね、こういうそのデジタルの世界の中で価値を持ついろいろな品物というものが流通を始めて、実は僕もかなりやり過ぎじゃないかと思ってしまうんですけどもとんでもない価格がついたりしてるわけですね。あれはどういうふうな形で軟着陸するかというのはよく分かんないんですけども、とにかく都市の活性化という中において、そういうその経済的な活動がどうなっていくかってことは恐らく非常に重要なところだろうと思います。それと、先程から我々が議論してるみたな文教的なもの、あるいはアートのもの、文化的なもの、そういうものが上手にうまい具合に情報の世界の中だと回っていくんだみたいなところでのヒントにもなるかなという風にも思いました。

で、そういうことですから情勢はどんどんどんどん変わっていくので、恐らく今日が第3回目、その次の間にまた何か色々新しい話題が入るかもしれないということですね。打ち続けていくってことが非常に重要なのかなっていう風に思います。特に今年は重要なのは、そういうサイバーな世界っていうのは前回もちょっと申し上げたと思いますけれども、実はものすごくそのいきなりの世界とつながっちゃうみたいな形で、この浦和という地政学的なところですね、場所ですよ、その地理的な場所っていう話と、サイバー空間っていうのはもういきなりこれ世界みたいな話ですね、ちょっとやや違和感があるんですよ。繋がり。じゃあそれでこの今我々のいるリアルな浦和っていうものが、どういう形でつながるかってことが上手い繋がり方を考え出したところが僕は価値だと思うんですけども。さっき隈さんのおっしゃったように、個性であるとか人であるとか、特にその東京にこれだけ近いので、

しかも県庁所在地なんだけれども何かヒューマンスケールであるっていうようなところ、すごくいいことだというふうに思います。大きくないから嫌だ言ってる人もまだいるかもしれないんだけど、あるいは何て言うかそのヒューマンスケールが見えるっていう確かに今日駅の前に立たせていただいてですね、そういう意味では非常にいい感じのスケールのまちだっていう感じがいたしました。で、我々の立場からいうと、これから恐らくですね、在宅をベースとした生活の組みかえっていうのがすごく行われるようになってくるんだと思います。これは、皆さん方がどういうふうな形で情報技術というものに対して信頼を寄せていくかってことにもよるんだと思うんですけども、さっき、いみじくも隈さんもおっしゃったように、大都市にね、長い時間かけて通うってこと自身は僕らは当たり前だと思ってるかもしれないけど考えてみると非常に辛いことなのかもしれないですね。そういうことをもう一回考え直してみるってことはちょっといい機会かもしれないけど、ある会社なんかは在宅をスタンダードにして、都心のオフィスに通うってこと自身を出張扱いにする、そういう大きな会社もございますよね。そうだとするとね、例えばこれ子育て家族なんかに取ってみると非常に福音ですよ。それから高齢者も家から出ないで、働けるなんて場合にはすごくいいことになりますし、ちょっと新しいタイプの住まい方っていうのが出てくるんじゃないかと。そうしたときに、ではどこに家を構えて生活の拠点をどこに置くかといったときに、やっぱりその、先程、浦和のすごいプライド、スライドにありましたけれども、ああいうところってやっぱり強みになると思いますので、そういうところから少しずつ整理をしていって、一方では、やっぱりそれはそれなりの都心につながる、あるいは世界につながるっていうところでうまい具合にそこの外のワールドに対するジャンクションとしてデジタルを上手に使っていく。そんなようなイメージが出てくればいいなという風に思いました。プランとして見た時には、大変素晴らしいものを1年目に作っていただけたと思っております。ありがとうございました。

市長

はい、ありがとうございます。廣瀬委員からのご意見でした。続きまして、本日残念ながらお越しいただけませんでした安河内委員から事前に意見を頂いておりますので、スクリーンをご覧頂きたいと思っております。

安河内委員

こんにちは、安河内眞美です。よろしくお願ひ致します。浦和のまちのさらなる将来像というかこれからの発展についてのお話をさせていただきます。私は浦和のまちというか、駅からの別所沼に向かってのあの辺りを2、3回歩かせていただいたんですけども、駅を降りてすぐのまちの景観というかそういうものがやはりまだまとまっていないような気がいたします。一度は別所沼の方から駅の方に向かって歩きということをしたんですが、やはり歩きやすいとはちょっとまだなかなか言えない。小さなことから言えば、車道あるいは歩道か

ら車道を渡ってというそういう小さな段差から、その街の景観ですね、楽しみながら歩くとか、ここにこういうものがあるんだなと思いつきながら歩く、そういう楽しみっていうのが今一つないような気がいたします。もちろん、なかなかそういうのっていうのは作って作れるわけでもないのかと思いますけれども、特にこの間も申し上げました、浦和宿、埼玉の中を浦和のところを中山道が通っているわけで、その中山道っていう一つの財産をもっと生かして多少いにしえを偲ぶことのできる雰囲気とか、その良さというものが感じられるような歩きになるといいなという風に思っております。

文化ということで言いますと、別所沼というのは一番の緑もあり落ち着いた雰囲気がとてもいい場所だなと思っております。浦和の画家たち、住んでいた画家たちというのをたびたびこの会合でも出てくるんですけども、一時期そういう一つのまち的なものができた、村的なものができたというのはあっても、今の方がそれをそのまま知っているわけではないし、なかなかもちろん実感として感じられるわけでもない。別所沼の辺りはいいなと思うけれどもそこで何か話を聞いて、ああそうなんですね、昔画家さん達がいっぱいいたんですねっていう話にはなっても、やはり一過性のものですし、言ってしまえばそれも過去のことです。そこで特にこだわる必要はもうないのではないかなと思っております。

その辺を別所沼のいい雰囲気をさらにまた画家に限らず、美術にある意味限らず、ただ創造的な雰囲気ができる創造することのできるものを作ることが楽しめるようなそういう雰囲気とか、そういった人達が来て住んで住みたいと思えるようなまちを作り、その雰囲気をその周辺の人達もまちの人達も共に味わえるような何かそういったものを将来的に考えていった方がいいのかなと思います。勿論、浦和画家を置き去りにするのではなくて、そういうことは子供達が小学校とかそこで一時期ちょっと学ぶと言うか、そういうことを聞いて心の隅に留めておく。やはり教育の中で他のまちとは違う、その部分の教育というかそういうストーリーを語ってあげる場があることが自分のまちを知ることにもなるし、またもっと色んなところに伝えていくことができるのではないかなと思います。

人気のまちとなって、外からも色んな方が、若い世代が来て住む若い家庭が多いという風なことも聞いてますけれども、そういう方達が来て突然浦和画家と言われてもまあ本当に一過性に終わってしまうことなので、そこをそこに来た子供達にまず伝えていく。で、何もそれをしっかり残さなくてはいくよりも、そういうものがあつたってことは一つの事実として広げていこうっていう風なところだと、ちょっと無理があるのかなと思います。これからの勿論まちとして、その子供達ってやっぱり重要なキーワードで、その彼らがこないだはその美術館に行く、学校から連れて行ってもらう。そして、もちろん子供達ですから、全然もうはしゃいで何もなかったみたいになっちゃう子もいるんでしょうけれども、小さい時にそういう体験をしていくってのは非常に私は大事な事だと思っております。そこで、そう言えば行ったことがあるっていうちょっとの事が、その後その子供達が何か興味を持った時にまた一つ思い出されるでしょうし、美術だけでなくいろんなシーンを見せてあげる、子供達にそういう体験をさせてあげることがそれぞれの特性というか向いた

ものを見つけていく糧になるのではないかなという風に思っております。

市長

はい、ありがとうございます。安河内委員からのご意見でした。続きまして、昨年度の懇話会で、浦和の強みであります文教都市のイメージを活かし、人生 100 年時代の教育の発信拠点を目指してはどうか。こういったご意見を頂きました、埼玉大学の坂井委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

坂井委員

はい、坂井でございます。先程の市長の方からもお示しいただきました素案ということですが、中には方針・展開ということが示されております。特に私非常にそうだなと思ったのは、多様なライフスタイルを実現すること。それから浦和の文化教育スポーツを体感し楽しむ、そういうまちづくりを目指すんだということでありました。これをコンセプトと大変私も共感できるという風に思います。全体として我々の意見よくまとめて作られているなという風に思いました。今日、ここで多様なライフスタイルの、そのライフスタイルの特に働くことということについてちょっとお話をさせていただければという風に思います。先程もありましたように人生 100 年時代ということが言われておりまして、これは働くことのできる期間が長くなるということを意味するのです。働かなければいけない期間が長くなると言ってもいいかもしれませんが、そういうことがもうこれから進んでいくだろうというのも間違いないと思います。また、もう一方でですね、働き方が随分変わってきた。最近の働き方改革はもちろんそうではありますが、昔みたいにですね、一つの企業にずっといるということではなくて、転職ということが自然に行われてるとハードルが低くなったという風に言うこともできるかと思えます。こういうようなところでですね、考えてみると働くということを考えて時に、本当に自分は何をしたいのかとか、自分に向いてるものは何なんだろう。そういうことを考えながら、自分の働き方を自分でこう作っていく。あるいは、そうですね、作っていくということになろうかと思えます。ちょっと違う言葉で言うと、自己実現を通してですね、自分の幸福度を向上させるということにつながるのだというふうに思っています。そういう風にこの働き方が柔軟になってくる、あるいは自分の進路を次々にこう新しいものにチャレンジして変えていくという時に、幾つか大切なポイントがあると思うんですが、中でも非常に重要なのは教育の環境だろうという風に思います。ちょっと具体的に申し上げますと、最近よく言われますリカレント教育とか、あるいはリスキリング教育というものになると思います。これからは、よく言われますけれども働いて学んで働いて学んでということで、新しいキャリアを学ぶことによって新しいキャリアの方向に進んでいけるように自分を高めていくということ。また、自分が今行ってる仕事のスキルをアップデートしていく。それがリスキリングということで、これからは我々学んでいくんだらうというふうに思います。で、それがさいたま市、あるいは浦和の地区でですね、どういふも

のが必要なかっていうのはこれはしっかり考えていかなければいけない。ということだ
と思うんで、それはまたあとちょっとここ置いておきますけれども、まちづくりの観点とい
うところからいたしますと、やはりリスクリングとかあるいはリカレントというものをアク
セスしやすいというような場を作るということが大事なんだろうという風に思います。
もうちょっと具体的に言うと、やはりスマートシティって言葉がありますけども、デジタル
をうまく活用してオンライン、あるいはデジタルアーカイブ。そういうものを充実させてい
ってそれにみんながアクセスをしていく。そして、自分の新しいキャリアを作っていけるよ
うな学びを進めていく。そういうことが大事なんだろうなと思います。したがって、一つ目
指す方向というのは、都市が目指す方向というのはデジタル環境をしっかり作ってですね、
それで学びを進めるようなコンテンツを用意するということなのかなというふうに思いま
す。一方でただ、デジタルだけで済むのかっていうとやはりそうではないのだろうと私は思
っていて、人と人が繋がるということがやはり非常に重要だろうと思います。学びをする
時にもですね、人とのつながりの中で教え合ったり、あるいは情報交換するということが新
しい学びに繋がってくるのは間違いないことだろうと思います。人々が集まって学べるよ
うな環境というのも同時に作っていくことが必要かと思います。これはそうすると、すぐ教
室かなってことになるんですけども、もちろん教室みたいなものも必要なんだと思うん
ですが、まちの中でですね、さまざまな施設をネットワーク化してそして内容を系統立てて
作る。そして、デジタルを活用しながらまち全体で人の触れ合いの中から学べる。という
環境をつくっていくべきなんだろうなという風に思っております。浦和は、今までよく言わ
れてますように、教育の長い歴史を持っております。また、教育に関心の高い方もたくさん
居られるというところでもありますので、浦和だからこそそういうことが発信できていける
だろうという風に思っていますし、このことは浦和地区にだけで閉じるのではなくてさい
たま市全体の教育のレベルアップにもつながって行くんだらうという風に思っています。
まとめますと、やはり今後入れていくべきものとして、リカレントとかリスクリングをどう
いうふうに導入していくのか。それから、デジタルをその中でどう活用していくのか。そし
て同時に人と人との触れ合いの場をどうつくっていくのか。今後、具体的にそういうことを
考えていっていただけたらありがたいと思います。以上です。

市長

はい、ありがとうございます。それでは続きまして、インフラである鉄道事業者の観点か
ら、防災、また、安心安全の重要性、また、駅を中心にウォークアブルな空間を整備し、「集
う駅」から「つながる駅」といったご発言頂いておりました鳥羽委員より、ご意見を頂戴し
たいと思います。よろしくお願い致します。

鳥羽委員

はい、紹介にあずかりました浦和駅の鳥羽でございます。この本題に入る前にですね、ちょ

っと紹介なんですけれど、浦和駅は来週の木曜日7月28日なんですけれど、139歳を迎えます。これは明治16年に開業しまして当時はですね、上野、王子、浦和、そして上尾、鴻巣、熊谷というところだったんですね。その後に大宮が線路を分岐して東北線ができたというようなところですね、とても歴史もですね、古い駅でございます。そういう駅でございます、今まで鉄道の中でとても大きな災害ですね、震災があったりとか、いろいろなことを経験しております。これも繰り返し繰り返し経験してるんですけれどそういった災害の経験をもとにですね、気付いていることっていうのが鉄道事業としてですね、やっぱり交通機関の混乱時ということにはですね、やっぱり不特定多数の方がやはり駅周辺に集中することがこれからも予想されるということでございます。こういったような状況下で駅周辺ですね、この駅の周りの施設とかですね。そういった方達と連携をすることによってですね、誰もが例えば食料であったりとか、通信、電力、そういった供給のできる防災機能を備えた設備っていうんですか、そういうのが必要だと今考えております。加えて、浦和駅には豊富な水源ですか、上質な水が地下にあるということをととても水に恵まれているということを聞いております。また、そういうことを是非何か活用できればいいなっていうのもちょっと期待をしておる次第でございます。これからの駅だけではなく、生活とですね、この移動ですね。そしてIT、そういった電子マネーなんかもあるんですけれども、そういった融合したワンストップのシームレスっていうんですか。そういった移動手段に加え、例えば平らな道でバリアフリー化をするとかそういう実現の環境づくりもぜひしてほしいなと思います。それとやはり電車を降りて駅からこれからバスに乗って、またはタクシーに乗る。またはこれからは乗り合い形式のバスでもタクシーでもない乗り合う、何か車の移動、そういったことまたは自転車ですね。そういった交通機関同士の接続がスムーズに行えればいいなとは考えております。言い換えると、この浦和は自家用車がなくても移動しやすいまちだというのは、ちょっと理想かななんて考えております。

あとは情報の関係なんですけど、そういった掲示板の設置ですね。やはりどこ歩いても色々な情報が一目で入る。例えば交通渋滞であったりとか、そういう状況、駅の例えばまちの魅力の発信ですね。これはもちろん駅でもやるんですけれど、そういったまちの情報の発信を分かりやすく文字であったりとか、絵であったりとか、そういう案内サインの際のリアルタイムでそういったデータを充実を図っていただければと考えております。これからですね、駅周辺ということですので駅としての役割をこれから地域と繋がるプラットホームっていうイメージでですね、意識して地域の方と長く幅の広い関係を作っていきたいなと考えております。以上でございます。

市長

はい、ありがとうございます。それでは続きまして、今年度、伊勢丹浦和店の店長に就任をされまして、今回の懇話会に初めてご参加をいただいております三木委員より、ご意見を頂戴したいと思います。よろしくお願い致します。

三木委員

ただいま御紹介いただきました、伊勢丹浦和店の三木でございます。よろしくお願ひいたします。私実は住まいが川口でございます。普段から生活圏として、この浦和近辺利用させていただいています。その中で浦和に対するイメージということで申し上げますと、都心機能と緑っていうのが非常にこう密接をしている。またですね、弊社伊勢丹浦和店代表するパルコさんを含めて大型の商業施設、それに隣接する形ですね、商店街昔からの個人経営の商店の方々、こういった方達と隣接しながら連携しながら商売している。いわゆる非常に多様性のあるまちだなという風に思っております。で、ここをですね、上質な生活を志向される浦和のまちの方々、こういった方々が基盤となってこの街を形成されていると非常にいいまちだなという風に思っている。いつか浦和に私も引っ越しをさせていただきたいという風に思っている次第でございます。

今回のビジョンのお話に移らせていただきますと、非常に合理的なおつくりをいただいているという風に感じております。浦和の将来像、洗練された伝統と感性豊かな文化が息づく風格で魅了する都心浦和。この将来像だけを話し、私の正直な感想を申し上げますと、実はすでに浦和っていうのはこういった魅力を持っているのかなという風に思っています。で、これをいかに 2050 年に向けて進化をしてアップデートしていくか、ここが非常に重要なポイントかな。それを受けたこの方針を含めたところ、これは非常に合理的だなという風に思っている所存でございます。で、その中で先ほど安河内委員もおっしゃっていましたが、浦和の街の成り立ちで申し上げますとやはり中山道、この人の往来。この人の往来から浦和宿の人の住まい、この往来と人の住まいというこの二つの局面というのがですね、やはりまちの発展には非常に重要なポイントになってこようかなと。我々商業施設を運営している人間としても、非常に重要なポイントになってまいります。いかにですね、この浦和のスポーツや文教都市といった魅力をアップデートして進化をしながら往来、ここを増やしていけるか。一方でですね、まちの機能、住まう人の機能をアップデートしていかに住まう方々を増やしていけるか。この具体的な取り組み、ここが非常に重要なポイントになってくるといふことかなという風に思っております。で、そういった意味では我々駅前というところの商業施設でございます。今、鳥羽委員からもお話がありました浦和駅にすぐ隣接をするという位置関係の中でですね、今後のこの浦和のビジョンに基づいた発展の中での一つのプラットフォーム、おへその部分としていかに浦和の方々と一緒にここを発展させられるかということを考えなければいけないということ、日々日々思いながら営業活動しております。そういった意味ではですね、リアルな空間というところの我々の強みを逆に生かしながら地域の方々の繋がる場所、つながることみたいなところも商業施設として貢献させていただきたいというふうに思っております。

まとめますと、この往来と住まう部分、この二つの成長、浦和のまちとしての魅力の成長、人の成長と言われているこの方針の部分がいかに具体化していけるかというところにぜひ

これからも参画をさせていただければというふうに思っております。以上でございます。ありがとうございます。

市長

はい、ありがとうございます。それでは続きまして、昨年度、まちは安心安全が第一で、防災・交通・防犯など多角的な安心安全が必要であり、また、新旧住民のコミュニティ形成やウォーカブルな整備が重要とのご発言を頂きました市川委員より、ご意見を頂戴したいと思います。

市川委員

はい、地元浦和商店会連合会副会長の市川淳平です。私からは 4 項目に分けてお話をさせていただきます。

1、ウォーカブルなまちと県都浦和について。浦和駅の改札を出て青空を見た時からウォーカブル、歩き出したくなるまちを感じたいものです。それは車中心から人中心の空間に転換することになります。現在、浦和駅西口南の再開発事業が進行中ですが、これとは別に駅前ロータリーをリ・デザインできないものでしょうか。駅前ロータリーは一等地であるのにほぼバスの発着所のためだけに使われ、有効利用されているようには思えません。実は以前から浦和駅西口に広場らしい広場がない、駅前に広がりがないという声がありました。どうするかと言いますと、一般車両を進入禁止にし、半分をバスとタクシーと身障者用のターミナルとし、もう半分を緑化部分含む広場とするというものです。今まで西口で大勢の人が集まるイベントを実施するのは不可能でした。イベントの種類によっては西口でなければ不都合なものもあります。無茶な話かもしれませんが、ウォーカブルなまちづくりの発想として受け止めていただければ幸いです。また、今後、浦和は県都としてのイメージを強めていっても良いのではないかと思います。そのためには、今申し上げた西口駅前と駅前広場を起点として県庁通り沿道、その一帯を再整備する。方法としては、時間をかけてデザインコードを利用した街並みに仕上げていく。そして建て替えられて風格ある埼玉県新庁舎に繋げていくというイメージを持っています。

2、新旧住民の安心安全の守り方について。少し視点を変えてみると、人的部分によって街の安心が守られてきたところもあるように思います。元々の地元住民は、150 年前に県都浦和という地政学的有利を得て、早くから学校教育と道德教育等が普及し、そして文教都市という評価を背景に安定的に世代を重ね、やや排他的な部分を含みながら自分たちで脈々と育んだ教育環境、治安を守るといふ地元住民意識であったと思います。そして昨今、新しい浦和の住民となられた方々は、高額な分譲価格、賃料にかかわらず教育水準の高さ、安心安全な子育て環境、ショッピングやアクセス等の利便性を他と比較して浦和を選んでいきます。当然ながら、新住民の方々もおのずとせつかく手に入れた住環境、教育環境、安心安全な子育て環境を守り、更に高めていくと予想しています。この好循環を保持していくことが、持

続可能な人的なまちの安心安全に繋がると思います。

3、ウォーカブルなまちと緑のネットワークについて。私は春と秋の天気の良い日は車を置いて徒歩通勤します。最もお気に入りのルートは、暗渠を利用した幅員 2メートル程の岸町緑道です。相当古い緑道ですが、民家の庭先にあるツツジアジサイ、キンモクセイの季節の花々を楽しむことができます。もっとも他人の家を覗くことにもなるので、不審者通報されないように気をつけることです。前回、3つの水辺が2つの遊歩道でほぼつながっていると話ししましたが、この遊歩道も恐らく暗渠です。暗渠は水路に蓋をして通路になった時から路地性を醸し出しているように感じます。法律上難しいのかもしれませんが、暗渠上の整備を進め緑のネットワークとすることはできないものかと思います。

4、地域コミュニティの形成と深化について。深化のシンは深いという事を当ててください。前回、あるマンション内の商店会と居住者が協力してお祭りを開催し、コミュニティを形成しているというお話をしました。もう一つ例を挙げたいと思います。夏の浦和まつりはコロナ渦のため今年も中止ですが、例年なら高砂二丁目の大人神輿の担ぎ手は、NTT、埼玉りそな、みずほ両銀行、たいよう保育園などから総勢 200人以上集まります。子供神輿は、高砂、岸町両小学校の子供会を通して参加児童を募りますが、もれなく両親祖父母がついてきて総勢 100人となります。こうして祭を通して、地域企業や児童とその家族が浦和という地域の一員となっていくように見えます。祭りは言い換えると、住民同士の接点なのです。今年、浦和区民祭りが秋に開催されると聞いていますが、これは住民と行政との接点と言えないでしょうか。埼玉大学では毎年受講料無料の公開市民講座を開いています。これは大学と地域住民の接点と言えないでしょうか。様々な方面のいろいろな場面で沢山の接点を作り、そして上質の設定にしていくこと。コミュニティの形成はもちろん、地域の熟成と深化を図るものではないでしょうか。私からは以上です。

市長

はい、ありがとうございました。次に、昨年度、「のんびり、ゆっくり、しっかり」といった浦和の良さを継承しながら発展する浦和といった発言を頂いていた向井委員から、ご意見を頂戴したいと思います。

向井委員

はい、よろしくをお願いします。のんびりゆっくり、でもしっかり。それが浦和の私からのイメージなんですけれども、私は実は大宮出身なんです。大宮と浦和は色々ライバルなんですけれども、皆さん浦和の皆さんは大宮から学んでください。嫌なところを反面教師として学んでいただきたいなと思います。大宮はバブルの頃にいきなり発展してしまったのでわりとですね、駅前見ても不便なんです。細切れに俺が俺が、うちのビルがっていう感じで発展してしまったので、例えば皆が使えるような公共の場所、駐車場。そういうところがなかなか見つからなくて使いづらい街になってしまっているんじゃないかなと思います。浦

和はこれから変わるということで伸びしろしかありません。この大宮の失敗した部分に学んで、ゆっくりでもしっかり、住みやすい街になってほしいなと思います。大宮で大宮出身なんで育ったんですけれども、学校が浦和にあったので浦和駅浦和界隈のこの辺はもう20年30年40年ぐらいの変遷っていうのを本当に目の高さで見えてまいりました。浦和は本当に風格があります。文教都市です。でも、どこか押しが弱いところがあるんじゃないかなと思うんですね。その押しの弱さっていうのをいいところに変えてこれからみんなちょっと俺が俺が、私が私がじゃない、みんなで何かうまくやっていたらいいよねっていうようなゆっくりとした、でも優しい繋がりを持って発展して欲しいなと本当に思います。今日、理念の中から出てきた言葉に、継承・人・持続可能っていう言葉が出てきたんですけれども、継承、それも人から人への持続可能な継承っていうのは、私はケアの場とか学びの場から出てくるんじゃないかなと思います。デジタルの部分もものすごく大事なんですけれども、デジタルだけだとやっぱり実体がないっていうので、どこまで信頼していいのか、どこまでSOSを出していいのか、どこまで助けて、頼っていいのか。そこら辺が私達世代、本当にどのくらい頼っていいのか分からない。何かこう闇雲に中に入っていいのかわからないっていうそういう部分の危うさもある世界だと思うんですね。だから今、お話聞いて思い出したところがあるんですけれども、いきなり話は飛ぶようですが、鹿児島県の鹿児島市の隣に谷山、谷山っていう小さな市があるんですね。のどかな市があるんですけれどもそこで私の友達が老人ホーム、デイケア、それから保育園、っていうその三つの施設が合体した施設を作ったんですね。そこでおじいちゃんおばあちゃんが元気なくなってきたり、ちっちゃな子供達がキャッキョ遊ぶ姿を見て元気を取り戻してくれるんじゃないか。そう思って、そういった施設を一生懸命頑張って作ったんですけれども、結果、すごくそういういい、おじいちゃんおばあちゃんも子供のコミュニケーションから生まれるとても素敵につながりもできたんですけれども、実は瓢箪から駒のような繋がり、それは介護をこれからしていくぞっていう私たち世代、子供を育てながらどうやってこれからダブルインカム、共働きになっていこうかなっていう風に考えている若い親世代、介護を控えている親世代、それから子育てから本当に働いて学んで働いて学んでじゃないんですけれども、そのペースをこれから子育てから自分たちのやっぱりもっと収入を増やすために働いてっていうところにもうちょっとギアチェンジしていこうっていう、その真ん中の世代がものすごく横のつながりを持ち始めた。おじいちゃんおばあちゃんがこんなことができなくなった、あんなところでつまづいているどうしようっていうのも、私たち世代が繋がって助け合えないかな。こういうお仕事したいんだけど子供をどういう風に預けたりどういうふうに教育の場に連れて行けば、自分の働く時間がキープできるかなっていう、その若いパパママ世代がつながってものすごく面白い化学反応が起きました。そういうふうに教えてくれたんですね。だから、人と人とのつながりの先にあるデジタルのつながりっていうのが大事になってくるんじゃないかな。それが柔らかな継承、柔らかなからこそ本当の意味で強い持続可能な関係なんじゃないかな、そういうふうに最近思っています。実は私の子供

はこの間高校を卒業したんですけれども、アメリカに留学してたんですね。で、英語で物理を取らなくちゃいけなかったんです。物理がなかなか難しくてもう少しで単位を落としそうになって、どうしようって思った時に、私高校時代の友達の LINE グループに SOS を出したんですね。誰か英語で物理をうちの子に教えてくれないって言ったらいよいよ手を挙げてくれたのがグラスゴー大学にいる友達の息子、大阪の阪大大学院にいる友達の息子。私、浦和第一女子っていう高校に行ってたんですけど、みんな友達たちすごく頭いい子多いんですよ。私その中で沈殿してたんですけど、本当に沈んでたんですけど、その子供達ものすごくちゃんと勉強していて、だからうちの子供はホノルルに行ったんですけども、ホノルルと東京と大阪と、私の友達は国連で仕事してるんで、ジュネーブとグラスゴーで全部が繋がりながら物理の単位を取ることができたんですね。で、こないだ夏休みが始まって東京でみんな会って、あの時こういう風なところの教え方はどうだったああだった、じゃあ卒業できたんだね、点数はどうだったのああだったの、じゃあこれから宇宙物理でどんどころに就職するの、物理の面白さって本当はどんどころなのっていうのを、何て言うんでしょう、楽しくし繋がったことの答え合わせの何て言うんでしょう、最後の最後のおいしいところっていうのを今度は顔を合わせて確認することができて、また、夏休みが終わったら散り散りになって行くけどまだ分からないところがあったら SOS 出していいみたいな、とても強い絆が世界一周するくらいの規模でできたんですね。そういう繋がりが浦和からできたらいいな。持続可能っていうことはたくさん伸びしろを作って、たくさん弱音を吐いたり SOS を出したりできることはやるけど、できないことはやらないよみたいな。そういう無理をしないゆるっとしたそういう何て言うんでしょう、頑張りすぎない繋がりが何重にもこう広がっていったらいいなっていうそういうイメージを持ちながら皆さんのお話を伺っていました。本当に私の言うことっていうのは、相当何かカジュアルなんですけれども、でもカジュアルな発想の中で、うわ、そっか、だったらうちのおばあちゃん呼んでみようかな。いくつになっても学びたいって言ってたから、浦和に行ったら絶対お仲間が見つかるなとか。私みたいに、うわー、いろんな勉強全部忘れちゃったけど、でも友達がいるんだったらもう一回英語習おうかなとか。そういう何て言うんでしょう、浦和に行くとかちょっとやる気が出ちゃうとか。何か友達と一緒にだったらもう一回学んでみようかなとか。そういうことが人生 100 年の時代にわりと強い何て言うんでしょう、引力を持つんじゃないかなと思います。浦和だからこそできることっていうのが、これだけたくさんの素晴らしい頭脳とカジュアルな頭脳と色んな頭脳が集まることによって、これからのまちを作っていけるんじゃないかなと思って、今日は夢をいっぱい思い描きましたので、後半もできる限り時間の許す限り申し上げて、皆さんの頭脳明晰の皆さんの脳みそのところに爪痕を残そうかなと思っております。ありがとうございました。

市長

はい、ありがとうございました。続きまして、本日残念ながらお越しいただけませんでした

安藤委員から、浦和のまちの魅力の一つでありますスポーツという視点から、事前にご意見を頂いておりますので、スクリーンをご覧頂きたいと思います。

安藤委員

三菱重工浦和レッズレディースの安藤梢です。街だけが成長して良くなってもそこに住む人たちが楽しんだり、明るく住みやすくできなかったら基本理念にある「持続可能」っていうのは進んでいかないと思うので、この基本理念の様に街と人が一緒になってまちづくりを進めていくっていうのはとても素晴らしい事だと思います。

まさに、浦和がさいたまのサッカー発祥の地なので、浦和レッズが伝統を守って常に日本一っていうのを目指して戦っていますので、この将来像っていうのはピッタリだなと思います。

私が始めて世界を目指したのは高校 2 年生の時に、初代表でアメリカで日本代表選手として戦ったときに全く世界に歯が立たなくて、すごい悔しい思いをしたんですけど、そこからいつか自分も世界一になりたいと思って世界を目指すようになって、トレーニングも常に世界を目指すように取り組むようになりました。その中で世界を自分が目指すと周りの方達も様々なサポートをしていただいて、クラブからも厚いサポートをしてもらって世界にチャレンジするようになりました。初めて高校生の時に世界を知って世界を目指すようになってから、トレーニングもそうだし、普段の生活もそうだし、自分が学ぶ事とかっていうのも常に世界基準を大事にして生活するようになって、全ての事に対して高いものをイメージして臨むようになったと思います。

今浦和の中でスポーツをするスタジアムとか、見る場所とか、宿泊とかあると思うんですけど、なかなかそれが一体となってる場所っていうのが無いかなっていうのが私自身が思うことなんですけど、する場所、見る場所が一体となった施設があると自然とそこに人が集まってきて、そこにサッカーが好きな人達が集まってくると自然とコミュニティが生まれたりとかして、仲間がたくさんできたりして、街の一体感っていうのが生まれるんじゃないかなと思います。浦和レッズは世界とも戦う事が多くて、前に ACL で海外のチームと戦ったりする時に、海外の対戦相手のサポーターが浦和に来ることがたくさんあると思うんですけど、そういう時に浦和の街で浦和に住んでいる街の人たちと一緒にコミュニティを作ったり、あとはそういう中で浦和ってどういう街なのかっていうのをアピールできるようなものがあると、もっと世界に浦和を知ってもらえるのかなと思います。

スポーツをしている子供たちとか、スポーツをずっと続けてきて、これからも継続していく方たちはスポーツを通してただ勝負負けるだけではなくて、スポーツから学ぶことはたくさんあって、例えばスポーツの中で培った課題解決能力だったり、実行力だったり、忍耐強さだったりっていうのは、浦和の街を豊かにしていくのに、とても役に立つ力だと思うので、スポーツをしてきた方達がずっと学び続ける環境づくりっていうのが、これから大切になると思います。日本は、まだまだ女性がスポーツに参加する割合っていうのは少ないと思う

んですけど、浦和は 2005 年から女子浦和レッズレディースを浦和レッズのクラブの傘下に
いれていただいて、最近ではヨーロッパでもビッグクラブが女子チームを持つという動き
が急速に最近なっていますけど、浦和はもっともっと前からはそういうことをやっていて、
世界に誇れることだと思うんですけど、その浦和を作っていただいた浦和レッズレディー
スというチームが今 WE リーグに参画していて、そこで自分たちが活躍することで浦和の
女性の方々にスポーツをやってみたいとか、ロールモデルになっていけるように私たちは
活躍を目指しているのです、自分たちの活躍によって浦和の街の中に女性でもスポーツを
したいという方たちがどんどん増えてきてくれることを願っています。

市長

ありがとうございました。委員の皆様にも専門の分野から、また、様々な切り口で貴重なご
意見をいただきました。ここで、隈会長にこれらの意見を踏まえて今一度ご意見をいただけれ
ばと思います。

隈会長

皆さんの意見を伺っていて、皆さん浦和に対して非常にプライドを持っておられると感じ
ました。プライドと愛情を持っておられる。大宮生まれでも愛情を持っておられる、って
いうぐらい皆さんの深い思いを感じたんですが、同時に何か今のままじゃってという風な思
いも感じました。

今のまま例えば歩いていて、まだまだ面白くない、道がまだ魅力を感じないとかですね。そ
の接点、人間とまちの接点の部分がもうちょっと充実したらもっといいのにといい風な、皆
さんある意味でハードル高いんですね。非常にハードルが高くて愛情があるけど、今のま
まじゃ駄目だということのハードル。皆さんやっぱりレベル本当にある意味で市民意識
がすごく高くて事だになっていう風にも感じました。それをどういう風にこれから活かして
いくかというのはですね。何が大事かって言うんですけどね。やはりきめ細かい計画みたいなの
が大事だなと思いました。大きなビジョンとして、今までの 20 世紀型の高層型じゃなくて、
ヒューマンスケールの都市の代表選手にしたい。大きな流れではですね、皆さん、その
最初の市長から発表になった、ビジョンの大体大きな流れでは一致しているんですけども、
具体的にどうするかというところで、きめ細かい計画、具体的な計画、そこに落とししてい
かないといけません。ヒューマンスケールのまちの難しさっていうのはですね、ある意味ヒュー
マンスケールって地味なんです。もう超高層の、例えば今の中国のまちなんていうのはで
すね。もう超高層を中心にまだまだボンボン作ってる。でアジアの都市が大体ですね。そう
いう超高層型競争がまだまだ続いていて、ヒューマンスケールの街はそれに比べると地味な
ので、逆にその地味な街で良さを作るにはですね、きめ細かい計画をして丁寧に磨いていく。
そこに人間が絡んでいく。単に出来上がりがきめ細かいだけでなく人間を巻き込んで
人間が絡んでいくというのはすごく大事で、その介護と子供さん達と一緒にいけるとかです

ね、これはまさに人間が巻き込まれていって、人間の新しい関係性が形になるみたいですね、そういう部分でディテールと人間の絡み方、この2つが揃ってこないと皆さんの愛情に答えるだけのまちづくりができないかなと思ひまして、そういう意味で今日は大きな方向性も確認できたんですが、同時にハードルが凄い高くなって、それを何とか、これから具体的な計画の中でまとめていかなきゃいけないなという風に感じました。

市長

はいありがとうございます。それでは次に未来像についてですね。これからスクリーンにお示しをしているような20代までの学生単身世代、また、30歳から40代の夫婦子育て世代、また50から70代の中高年世代、80代からの人生100年世代として、ライフステージ別に具体的にイメージして将来の生活シーンとしてお示しをしていきたいと考えております。将来の生活シーンは本日の有識者懇話会、また、市民ワークショップなどで御意見をいただきながら検討を進め、まちづくり展開、また、具体的な取り組みに対応させていきたいというふうに考えております。

まず、それでは私の方からですね、私の考える30年後の浦和での生活シーンについて、ちょっとイメージとして申し上げたいと思います。まず、スタートアップ企業を立ち上げた、浦和の高校出身の30代という設定で考えてみたいと思います。まず、都内の総合建設業に勤めていましたが得意分野がAIに置き換わったことで転職を決意をした。自宅がある浦和にはスタートアップを支援する仕組みが多数あって、そこからのアドバイスを受けて昨年完成した宇宙エレベーターを建設活用する企業を立ち上げました。浦和駅に隣接し緑が多く、まるで森の中にいるような快適なオフィスで、建物自体が人工光合成によってCO2を削減し、森と建物が一体となって地球環境に貢献をしている。また、全天候型システムの導入によって異常気象時も安心して働けるという環境にある。また、オフィスの周辺ではウォークブルエリアに設定されていて、昼休みはバーチャル技術で再現された中山道付近の江戸時代の町並みを楽しみながら、商店街のテラス席で起業家の仲間達と3Dフードプリンター技術で再現された世界各地の料理を堪能している。浦和の高校に通っていた時に起業に興味を持ち、浦和のエリアプラットフォームを通じて仮想空間のアバターで世界中の人々との出会いによって起業することができました。浦和絵描きが歴史を育んできたように、この経験を還元して浦和の人のサステイナブル・サイクルに貢献をしている。こんなイメージをちょっと想定をしてみたところでございます。

こういった形で今こう私自身の将来、2050年の将来像ということで今申し上げたんですけども、意見の2つ目として、2050年の将来像が実現した。浦和でどのような生活シーンが考えられるか。また、各分野の視点から委員の皆様にお考えを伺えればというふうに思っております。まず、例として今私から申し上げさせていただきます。次に、皆様からそれぞれの分野からのお考えを伺えればと思います。まず、隈会長からもお願いしたいと思ひます。

隈会長

そうですね。生活のシーンの話、皆さん DX とかリアリティーを上手く組み合わせてっていう夢の部分があったんですけど、その夢の部分と同時にですね、やっぱり色々な解決しなきゃならない問題があって、高齢化の問題ですとか、あるいは子育ての問題ですとか、リアリティーのある解決の時に、その部分に DX が入ってくるみたいな、今ただ楽しいことが多かったですよ。でも実際には、楽しいことじゃない部分を解決する時に、逆にその解決のプロセスで満足があるとか、充実感があるとか、街に対して自分の愛情が深まっていくとか、そういう部分のイメージをふくらませていったらいいなというふうに思うんですよ。こういう楽しいことはそんなにやんなくても皆さん見つけてくれると思うんですけども、実際の社会の問題、まちの問題、そういう問題を解決する部分の知恵のありようとか、DX との絡め方とか、そういう部分がですね。そういうところが出てくると計画に深みが出てきて、より計画に皆さんが賛同していただけるんじゃないかなっていう風な気がしました。

市長

ありがとうございます。それでは続きまして、今年度、加速的に進むバーチャル技術の進展を見据えた将来の生活シーンについて、廣瀬委員からもちょっとお考えを頂戴したいと思います。

廣瀬委員

市長がせっかく考えていただいて今隈さんから言われたやつですけども、あれ、確かによく考えていただいて、DX 入れていただいていると思うんですけども、30 代の方は隈さんがおっしゃったように楽しいことがたくさんあるので、もっとリアルでもいいかなって感じもするんですよ。むしろ、今その DX から遠い 80 代 90 代。ああいう方達に一体その DX がどういう風な福音をもたらすのかみたいなイメージっていうのはちょっと深堀していただけるといいかなっていう風に感じました。一言で言って、僕はどうしたいかっていうと一言で言うとも明るい寝たきり生活がいいなと思って、明るい寝たきり生活。仕事をしなくなってだんだんこうコミュニティからお年寄りがこう切られていくっていうのをね、やっぱりリアルだとどうしても難しくなるんじゃないですか、外に出るのが。そこはそれこそ本当に今のリモートじゃないですけども、家にいながらにして色々こう生活ができるっていうようなところを情報でこう補っていくっていうのはこれはすごく重要なことですし、ただ、今すぐおじいちゃんおばあちゃん ZOOM 使ってどうとは言えないと思うので、そこはこういうふうな形で作っていけばいいかなっていうことだと思いますし、それから一回在宅いろいろやってみるとですね、これ病み付きになるんですよ。こんな楽しい事は無くて、仕事終わった瞬間にもう趣味に走れるっていうようなところもありますので、いいところっていうのもっと伸ばしていくっていうのはすごくあると思いますね。20 世紀ってやっぱりサラリーマンは大体外出って 1 日中なんかもそうですけれども、家族としてはどうなのっ

ていうようなところはやっぱり当たり前だと思って、歪な現象が起こっているのです、そういう意味ではちゃんとこう明るい在宅をやるためにはですね、家が楽しい場所である必要があるじゃないですか。そうするとそれをターゲットにして一つ考え直してみるっていうことは、DX が前提となる話なんですけれども、浦和っていう街をすごく良くするためには、凄く重要なことなんじゃないかなっていう風に思います。ちょっと時間もあれですけれども、向井さんがデジタルの危うさの事をおっしゃいましたけれども、実はその通りで、やっぱり我々SFの世界の話だと思ってたことが現実になってるんですよ。特定の企業のことを言っていけないけれども、昨日も実は teams 落ちましたよね。それから2、3週間前、やっぱり携帯の事が大騒ぎになったわけで、やっぱりこれから情報技術っていうものを追う形で、その市民生活をしっかりその基盤として守っていくためにはどう考えていくのかってことやっぱり非常に重要なことだろうと思います。よく、我々メタバースの話で、教科書としてよく使うのが細田守監督のサマーウォーズってアニメがあるんですけれども、あれに実に色んなことが書いてあって、今のようにそのバーチャルな世界に何か障害を生じた時に、最後に何が救われるかっていうと実は大家族なんですね。そういう家族のコミュニティみたいなものが非常に重要だったので是非そのアニメ、別に細田さんとの何の関係もありませんけれども、見てもらうとすごくいいと思うんですけども、例えば電気屋の息子がねスパコンを持ってきちゃったりとか、電気がなくなったら何か漁師が…あんまりネタバレ言うともまずいかもしれませんが、そういうことが実にあるんですね、やっぱりリアルなコミュニティと可能性を持ったデジタルの技術っていうのが、さっき隈さんがおっしゃったように、すごく細かいレベルでつながって、具体的にそうした結果こういうことがあるんだという事をいろいろ考えてみるというのを、具体的に考えるって事ですね。それが重要なんじゃないかなということなので、基本的方針としてはこの一旦甘い汁を吸ってしまった在宅っていうのをですね中心にちょっといい住まい方というのは考えられるんじゃないかなと思って今考えているところです。

市長

ありがとうございました。

続きまして、坂井先生から教育者の視点ということから、将来の生活についてお考えを頂戴できればと思います。

坂井委員

将来自分がどんなところで生きたいか、そういう話でよろしいですかね。

私、大学の教員なもんですから、大学の2050年の大学の教員だったらこんな世界がいいなっていう話を最初にさせていただければと思います。研究をしなきゃいけないんですけども、大学までちょっと遠いので実は研究施設が近くにある、食住が近くにある、そこにおいて研究をして授業をやるんですけど、そこでも授業をやるんだけど、実はまちの中に教室

のようなものがあって、そこに学生も来るというようなところで授業をする。学生が来て学生と話をしながらですね、今日はこの後どうするの。街中をちょっとウロウロするんですよ、みたいな話をして、結構楽しいんだろうなと思って。授業は対面でやるんだけど同時にオンラインで配信もしていると、そうするとこれはどこでも授業を受けることができますので海外にいるやつもいると、その海外に向かって授業をすると、そういうようなことが考えられるかなと思っています。学生の方は学生の方で、今日は浦和のまちの中で授業があるからそっち行こうぜみたいな形で何人も学生が集まってくる。学生がそのまちの中をうろうろしてくれるということがまちの中でも非常に活性化につながるんだろうなという風に思います。また、自分で論文を書いたりするようなデスクワークをしないといけない時は、もうまちの中でデジタル空間が非常に発展をしてるので、どこでもネットに繋がることができる。まちの中にもまた自由に使えるスペースがあって、そこで仕事ができるということがあったらいいなと思いますね。集中してやりたい時には図書館へ行ってやるとか、美術館に行き行ってやりますけども、リラックスしたい時には別所沼に行きますよとか、あるいは駅の雑踏の中で雑音の中で仕事をするのも面白いんじゃないかな。そんな風に思います。要するにデジタル空間が全般にこう広がっていて、その中にアクセスできるという状況にあれば、どこでも仕事ができる。そしてそういう場が作られてるということがあれば、凄く働きやすいだろうなという風に思います。また、リラックスもできるだろうなという風に思います。一方、これは中年のおじさんからするとですね、古い民家みたいなものがあって、そこに年寄りがかうお茶飲みに来るといような場所がある。そのところにも小中高校生も来る。実際に今そういうような活動が進められてるっていうのをこないだテレビで見たんですけども、NPO 法人だったと思うんだけど、1階にはお年寄りが来て1日100円でいられますと、2階には高校生が来て勉強するスペースが1日200円で使えますといようなことでやると、その中でその若者とお年寄りの交流もできるし、それから場合によっては色々なことを教えたりすることができるっていうことも既に進んでいるわけですけども、そういうものができてきて人と人との触れ合いができるような場というのがあって、それがまた年代を超えることができるようなものだったら、すごく楽しいだろうなと、自分の人生を豊かになるだろうなという風に思います。

そういうところには来ている方達のお話を聞いてですね、その人の人生を知るとか、あるいは専門の話をしてもらう。場合によっては、近くにある大学の先生を呼んでですね、学問の話をしてもらう。そういう形でみんなでも共有できるスペースを持って時間をとることができたらいいなという風に思います。また一方、2050年ぐらいに本当にリアルに考えると、私なんかもう、ちょっと入院してるかなっていう風に思うんですけども、入院してるって所で考えた時には、これはやはりその中でも家族とも繋がっていききたいと思うわけだから、これはデジタル空間を利用してですね、色んな孫と連絡を取り合うとかね。もうその頃になったらかなり技術も進んでいるでしょうから、今みたいにフラットなものじゃなくて3Dで見られるかもしれない。そういう形でですね、家族とも繋がることができるとい

うこと。あるいはモビリティが進んでいけば、寝たきりなんだけどもまちの中を行ってですね、いろんな人に会うなんてことも可能かもしれない。いずれにしても、なかなかお金のかかる話だろうと思うからそう簡単にはいかないかもしれないんだけど、夢を語れといったら、そんな話かなと思います。まとめると街中どこでも仕事ができる環境というのが働き方を変えることにもなるし、生活を豊かにすることになると思います。また、世代を超えた人々が集まれるような場所が確保されていて、そこが機能しているということがあれば、また本当に幸せな人生を送れるんじゃないかなと、そんな風に思いました。以上です。

市長

ありがとうございます。続きまして、駅やその周辺で繋がる様々な人を中心とした将来の生活シーンということで、鳥羽委員の方からお願いしたいと思います。

鳥羽委員

今、浦和駅で私働いているんですけど、一番感じるのですね、お客様の層というんですか質がとていいって感じがします。それは他の駅でも働いているんですけど、特に浦和駅に関してはこれだけは、治安ていうとちょっと違うんですけど、とてお客様が質っていうんですか、住民の方の質がいいなというのを感じております。これって、やっぱり県都としての風格だとか、心の何かこう豊かさってというのが多分あるのかなってのを感じてるんですけど、例えば 2050 年とか先ほどからあるんですけど、自分がこれから 30 年後年を重ねたりとか、今いる年から 30 年遡って若返ったとしてもですね、皆さんとはちょっと違うんですけど今の浦和にある魅力を残してほしいなというのが本音でございます。それは、やっぱり駅の東西の周辺には小さい細い道が結構多いですね。小道っていうんですか、そこは静かな小道があったりとか、こう細いんですけど人通りが凄くこう込み合っているというような道もあるんですけども、とてその込み合っているけども静かでとて雰囲気がいい道だなって私感じています。こういった小道ってというのはなかなか他の地域には何かないようにですね私は思っていて、この雰囲気をですね活かすって言うのかな、是非残してほしいなと思います。だから何もいりませんと、何も求めません。そういう道を残してほしいなというのが私のイメージでございまして、新しいものを作るのもそうなんですけど今ある風景ですか、道の風景でもそういった地域ですか、道の風景とか生活ですね、こう年齢と共に一緒にその道と過ごしたいなと感じています。まとまらないんですけど、ストリートにストーリーを感じるっていうんですか、ちょっと似てるんですけど、そういうことをその年の時々はその通りを世代と共にそういった感じる道と年齢を重ねて過ごしたいなというのが、ちょっと私の意見でございます。

以上でございます。

市長

ありがとうございました。続きまして、浦和の商業環境によってもたらされる将来の生活シーンという視点で、三木委員からご意見をいただきたいと思います。

三木委員

今、鳥羽委員からもお話があったという浦和のお客様というのはですね、非常にいいお客様、住民の方は非常にその生活レベルが高いというところとちょっと語弊があるかもしれませんが、言い方として問題があるかもしれませんが、そういった方が多い。これは単に私がこの場で言っている話ではなくて、百貨店業界、中でもラグジュアリーを中心としたお取り組み先の皆様からも共通認識でございます。今、まさに我々の伊勢丹浦和店来ていただくとわかるとおりですね、1階のプロモーションの場所でグッチを期間限定で展開していますが、こういったものが展開できるというのは普通の百貨店ではあまりあり得ないですね。浦和店だからこそ、浦和のお客様がいいお客様だからこそ、これがグローバルのラグジュアリーブランドにも認められてこういった期間限定ショップというのができていますと、こういった形でございます。その中で、浦和のお客様の特徴をもう一つ申し上げますと、非常にワンストップといいますか、浦和で消費をされる方が非常に多い。我々首都圏数店舗を持っていますけれども、大体多く、店舗間同士で買いまわりが発生しています。新宿の伊勢丹、日本橋の三越、銀座の三越、伊勢丹の立川店、伊勢丹浦和店、当然ながら我々のグループの中でお客様買いまわっていただいていますけれども、実は浦和はですね、この店舗の中で最も浦和でしかお買い物をされないお客様、この方々が約6割ということで非常に他の店舗とは異なる特徴のあるお客様、購買をされる方というのが浦和の住民の皆さんかなという風に思っています。そういったことを考えるとですね、浦和の商業の我々としては、浦和で手に入らないものはない。こういった状況をつくっていくというのが、やはり2050年将来的にも非常に重要。そういった意味では今DXの話もございましたけれども、だんだん浦和のリアルの場合にいても、都内に出なくても、いろんなもののお客様の手に入っていくと、これを確かめるためリアルなものを実際に見てみるために、リアルの商業施設を活用しながら、デジタルで都内やグローバルなところとつながりながら購入ができる。こういった形っていくっていく。これが非常に浦和のお客様に合った新しい商業のスタイルになってこようかなという風に思っています。一方でですね、そういった意味で逆にリアルの価値というのも浦和のお客さま、浦和の皆さんにも非常に重要なポイントになってくる。そういった中ではですね、例えばですね、地域のコミュニティ、こういった皆さんが地域で活動されているところですね、こういったリアルの我々の商業施設で開催いただくことによって、新しいこのコミュニティの輪、これを拡大をしていっていただく。こういったところの商業施設としての新たな役割があるだろうと、例えばですね、ママの園という地域の子育てのお母さんのサークルというのがございますけれども、これを定期的に伊勢丹でご展開いただくと、そうするとそこに初めて来られた方が体験をされてその輪に入っていく。商業施設というのはそういった役割、これも実はコミュニティという、先ほどヒューマンスケールって限先

生もおっしゃっていましたが、そういったところを増幅させて機能としても商業施設としては参画をし、役割を果たしていくと、こういったことも必要かなというふうに思っています。もう一つは皆さんもご承知のとおり、モノからコトという生活スタイル、ニーズの変化の中で、浦和だからこその皆さんの暮らしを進化させていくような御紹介、こういったものも商業施設として必要だろうという風に考えています。先日、浦和では、トヨタのレーシングチームのトムスというところとコラボレーションをして、レーシングシュミレーターを販売したりですとか、富士スピードウェイでレーシング体験会、これを旅行商品にしてご提案させていただいたりということをしていただいたんですが、50歳代の女性のお客様がご主人と来られて、ご主人がシミュレートされるのかと思いきや、実は奥様がされて、地下にレーシングカーを飾ってたんですが実際に乗られて足が届く、私はこのレーシングスクールに富士スピードウェイに行くということで、ほぼ申し込みを決めていただいたんですが実はよくお話を聞くとですね、昔からそういった事が好きだったんだけどご主人にも言ってなかったと。浦和の伊勢丹でこういったことをやるのを初めて知って、ご主人を説得して連れてきて、ぜひやってみたく。こういったですね、浦和の生活の方々を何て言うんですかね、アップデートといいますか、暮らしを豊かにしていくようなこういったご提案も商業施設としては、特にコトの分野ではいろんな方とコラボレーションをしながら広がっていくと、こういったことは浦和のまちの独自性につながる。そういったことになって、より地域の方と密着をした、そのNB、いわゆるナショナルブランドではないですね、こういった商業施設がある。こういった風に作っていくことが必要かなという風に思っています。それが浦和の独自性になり先ほど私が申し上げました。往来というのを活性化すると、こういったことにつながるかなと。今、浦和の伊勢丹のお客様は、9割が浦和から南のお客様です。1割の方が大宮以北のお客様、これは県外の方も含まれます。でも、実は伸びとしては1割のお客様が130%140%と今、浦和にわざわざ大宮を越えて来ていただいていると、こういった取り組みによってですね浦和の魅力っていうのはさらに商業施設として拡大することができるのかな。

また、それをしなければいけないというふうに考えております。以上でございます。

市長

ありがとうございました。それでは続きまして、地域に密着して事業されていらっしゃる、地元を非常に熟知したという観点から、市川委員からまたお考えをお聞かせいただければと思います。

市川委員

私は、不動産業に携わっていますので、将来像も結構現実的な話になってきます。ちょっと述べさせていただきます。浦和駅西口は、2度目の再開発が行われ伊勢丹とコルソが再入居し、豊富な品ぞろえでネットショップでは満足できない浦和住民の需要に応じて

いると。駅前ロータリーも一体再開発が完了し、一部緑化された広場が整備され、様々なイベントが催され、住民の集う場となっている。また、この2度目の駅前西口再開発に先んじて、2040年頃までに埼玉県の新庁舎が建っているが、駅前再開発に合わせて県庁通りも拡幅し、沿道にはデザインコードを施した業務ビルも建ち始め、県都浦和の印象を強めていく。店舗はチェーン店が増え、親の代から受け継いだ個人商店は残念ながら店舗数を減らしている。商店会は、今のような街路ごとの商店会ではなく、合併により広域的な商店会として再編されている。店舗との金銭決済はほぼキャッシュレス化し、銀行に若干ATMはあるものの、銀行業務はメタバースを使っている。区役所や県庁の行政サービスも一部メタバースを使っている。30年の間には駅近隣のタワーマンションも数棟建つが、浦和区域の人口流入は一旦止まる。浦和区全域に新住民となった若いファミリー層や共働きのパワーカップルが増え、新旧住民の世代交代が進んでいく。今現在、建て替え時期を迎えている高砂小学校も増えた児童に対応するため、既に新校舎に建替えられ、最新の教育設備を備え、学力レベルは全国トップレベルになっている。永住型のケア付き高齢者用賃貸マンションが周辺に立ち始めている。住宅には再エネルギー設備が標準化されているが、温暖化の影響は残り、休日になると水辺に憩いや涼を求める家族連れやカップルが散歩に出てくる姿が見られる。以上です。

市長

ありがとうございました。それでは続きまして、快適な暮らし方や休日の過ごし方などをご提案いただいている観点から、向井委員から将来の生活シーンということで、お考えを聞かせていただければと思います。

向井委員

私が考えた、将来の浦和なんですけど、私が色々今まで人生で味わってきた中で、ああ高校時代もっと勉強しておけば良かったな、大学時代何でジュリアナばかり行ってたかな、そんなのばかりじゃないですけど。そういう感じで、やり残してきたことっていうのが自分の中にたくさんあるので、浦和に戻るとそれをもう一回できる。

そういうまちになってほしいなっていうことで、もう一回学べる場所になってほしいっていうのが、私の中で一番大きな希望なんですけれども、でも、それを考えた時にふと思い出したのが福島県に福島会津農林高校っていう高校があるんですけれども、ちょっと福島の応援のために企画があって、そちらに伺った時に、おじいちゃま、おばあちゃまと高校生と一緒に学んでいるっていうシーンがあって、会津の方には、会津伝統野菜っていう昔からずっと変わらずに育てているお野菜があって、今アメリカとか色んな所から大量生産で、1代のみで死んでしまうっていうような種をたくさん輸入しないと農業が成り立たないっていうエリアがたくさんあると思うんですけれども、会津には昔々からずっと作物を作って花を咲かせて種を集めて、もう一回蒔けばちゃんと次の世代の芽が出るっていう、そういう

種があるんで、その種をおじいちゃま、おばあちゃまのところからもらいます。もしそれが無かったら資料館に行って昔々の種を開いて、その遺伝子をもう一回復活させられないかっていう研究をして、それを、昔をよく知っているおじいちゃんおばあちゃんの知恵や記憶と一緒に、若い高校生たちがもう一回本当に花を咲かせて芽を出す。それが持続可能な生命力を持っている種を復活させるんだっていう、そういう研究をしていて、私も農業が大好きで、生物農芸学科だったんですけど、科学と、昔ながらの方法と、若い人と、お年を召した人っていう、その組み合わせだからこそできるっていう新しい世界があるんじゃないかなと思って、これからの学びを勿論デジタルだったり、オンラインっていうのがメインになっていくと思うんですけども、それと逆行するようにアートとか、アグリカルチャーのような手触りとか香りがあるような、本当にゆっくりした歩みでしか、作品なり、作物なりができないっていうような、そういうジャンルがもう一回何か脚光を浴びて学び直されるんじゃないかな。昔ながらの種を蒔いて芽が出ないっていう、その種おかしいよねっていう、綺麗な形にならなくても、これぞニンジンの香りだよねっていうような作物をもう一回作ろうっていう学びができるんじゃないかな。浦和だったら本当にお年を召した方の教養とかすごく品のある佇まいっていうのを私ずっと見てきたので、本当に浦和のお年を召した方から若い人達が大事に学ぶっていうような、そのサイクルも浦和だからこそできる、ゆっくりじっくりの代表格の文化だと思うので、そういう学べる場ができたらいいな、大学ができたらいいな。坂井先生のおっしゃるような大学ができて、市川さんのおっしゃるようなお祭りっていうのが大学の学園祭みたいな感じで、色んな人が参加できる、それが新しく浦和に住んだ人も参加できるお祭りみたいな感じのコミュニティが生まれたら、益々浦和の良さが素敵になって、隈先生が大変になるっていう、本当にきめ細かいところなんですけれども、何か人の満足感とか、安心感っていうのが得られるまちになってほしいっていう、レベル高いんですけど、浦和が好きだからこそ今の浦和のもったいないところが全部活きるいいなと思います。

市長

ありがとうございました。続きまして、安河内委員と安藤委員につきましても、事前にお考えをお伺いしておりますので、ここで御紹介をさせていただきたいと思います。

安河内委員

これからの浦和に住む方々の生活支援というか、どうやって快適に過ごしていくかというお話なんですけど、私の年代になると、本当にスローテンポで生活ができる、心地よく暮らしていくということを求めるようになるんだと思います。今住んでいるところでよくジムに行くんですけども、更衣室等でよくお話しされるのが、一人住まいの方がやはり結構多いので、いかに安全にというか見守りをしてもらって、気持ちの上で安心を得て暮らしていけるかというお話をよくなさっていらっしゃいます。そういう時にまちからの支援というん

でしょうか、そういうものがいかに充実しているかというのは、非常に大きなポイントで、浦和に住まわせていただくのであれば、やはり場所としては緑の多い別所沼の辺りというのはとても魅力的だなと思います。欲を言えば、高層マンションではなく、横に広い低層階、あるいは平屋の横につながるような住まいがあって、というのは、やはりどうしても努力しても縦というのはなかなか繋がりにくいんですね。横というのはやはり地面にくっついていきますし、安心感もあるし、外に出てお友達ができたり、知り合いと一緒に美術館に行く、散歩に行くというようなことができやすいまちなんだろうと思います。高齢化であり、少子化であり、日本の人口が減っていくというのは、もうこれは仕方のないことなのだろうと思います。その中で、最後まで皆さんが快適に暮らしていける、そういうシーンを作ることの大切さっていうのは考えていただけるとありがたいなと思います。今の浦和のまちの雰囲気というのは、恐らく元々の文化的なものもありますし、文教都市ということで雰囲気は大変元々いいものを持っているんだろうと思います。そこを上手に活用していくというか、デジタルというものが、今、やはり生活の中に入り込んでいるわけですが、全体的にそうするのではなくて、やはりいい部分をうまく活用していくブレインが必要なかなと思います。中山道をちょっとデジタル化して体験できたら楽しいだろうなっていうお話をしましたけれども、全く否定するつもりはないのですが、何でもかんでもデジタルの街にしてしまうと、私たち年配者は非常に住みにくいことになってしまいますので、活用の仕方を考えてちょうどいいまちというんでしょうか、もちろん若い方も東京に近いというか、オフィスに近い、家族と共に暮らすにも暮らしやすい、そして年配になっても暮らしやすい。それがちょうどいいバランスでできるということ、私自身は専門分野ではないのですが、文化も取り入れた、そういう部分を持っていただけるといいなと思います。

安藤委員

30年後に私が30歳くらいの設定で、休みの日にカフェで朝からのんびりして周りが緑に囲まれていて、それもサッカーが好きなんで、世界のサッカーとか浦和の試合とかも見たいので、ゆったりしながらここに自分が見たいなと思ったサッカーの試合がブワーって出てきてテレビ画面とかじゃなくて、3Dみたいな感じで出てきて、ポーッとしながらサッカーを見てゆっくりするっていうのが理想です。昼は、公園で友達とか、昔一緒にやっていたサッカー仲間と何かスポーツをしたいんですけど、サッカーじゃなくても30年後に今までやったことのないような球技、新しい何か道具とか出てきたりする新しいルールで、今ちょっと思いつかないですけど、バスケットとかバスケットボールがもう全部デジタルみたいになって、その中でシュートしてみるとか、ニュースポーツをやってみたいなと思います。私はマンションとかよりあまり高いところが好きじゃないので、2階建てぐらいの、周りに緑が多いような所に住んでテラスで夜はバーベキューをしたいです。畑とかで採った野菜を、浦和のおいしい野菜を使った料理を自分でやらなくてもロボットが焼いてくれたりとかっていうのをやってみたいです。

市長

ありがとうございました。委員の方々から様々な視点から考えられる将来 2050 年というお話しておりますが、将来の生活シーンということで、さまざまなご意見を頂戴しました。本日も来場いただいている皆様も是非ですね将来、この浦和でご自身の生活シーンどんなふうになったらいいかぜひ想像していただきたいという風に思っております。

さて、ここまで委員の皆様からまとめについて、また将来の生活シーンについてご意見をたくさんいただきました。改めまして、これまで委員の皆様から御意見を聞いてですね、全体を総括して隈会長からまとめとしてのご意見をいただければと思います。よろしくお願います。

隈会長

今日、皆さんの意見をいろいろ伺ってですね、改めて感じたことは、浦和の市民の皆さんというのはですね、特別だなと思いました。非常に求めているレベルが高いな。駅長からも伊勢丹さんからも市川からもみなさんやっぱり非常に浦和の方は生活のスタイルのクオリティが高い、ある意味ですね、非常に成熟したまちだなというふうに思いまして、こういうまちにどういう新しいまちづくりが相応しいか、今出てきたテーマはですね、言葉で言うと SDGs とカウエルビーイングとか DX とか、これは日本中で今言われている話なんですね、そのテーマ。でもそれは浦和っていうその成熟した特別な市民の皆さんにちゃんと満足がいくような形で、それをですね、実現するっていうのはですね、ある意味では非常にハードルは高いけどもやりがいのある仕事だ。それがうまく実現したら、本当に日本中のまち、世界中のまちがですね、浦和は新しい時代のリーダーだというふうに納得していただけるようなものができるんじゃないか、納得していただけるものを作らなきゃいけないんじゃないかなというふうに思いまして、今日はハードルの高さと同時に、やはりこれはやりがいがある仕事だなというふうにも実感いたしました。

市長

ありがとうございました。隈会長からまとめについても総括をしていただきまして本当にありがとうございます。会議もそろそろ終了の時間ということになってまいりました。委員の皆さんからは多くの意見、また、考え方を伺いまして、取りまとめ素案の将来像のイメージ、また、まちづくりの方針や展開だけでなく、それを実現するための、今後の取り組みにつながるたくさんのキーワード、また、ヒントをいただけたのではないかなというふうに思いました。本日は有識者の方々から御意見をいただきましたけれども、本日も、ご来場の皆様にお配りしたアンケート、また、今後開催する市民参加のワークショップ、こういったものも開催をする予定でございますので、それを通じまして、市民の皆様からのご意見もしっかりお寄せをいただき、また受け止めながらこのまちづくりビジョンを皆さんとしっかりと共

有できるものに作り上げていきたいというふうに考えております。

また、この有識者懇話会につきましては、11月に第4回目の有識者懇話会を開催することとしております。今年度末までに、このまちづくりビジョンを策定する予定でございます。次回の有識者懇話会、また、市民参加のワークショップなどにつきましても、今後市報、あるいはホームページで皆様にお知らせをしていきたいと思っております。

是非皆さんご参加をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。本日もご参加をいただきました。委員の皆様、本当にありがとうございました。また、会場にお越しをいただきました多くの市民の皆さんにおかれましても、長時間に渡ってご視聴いただきまして、ありがとうございました。引き続きこれはみんなで作り上げていくまちづくりでありますので、市民の皆さんにも引き続きご参加とご協力をお願いしたいと思います。

以上で第3回（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョン有識者懇話会を終了いたします。
本日はありがとうございました。